

## 魅力と活力ある学校づくりに向けた県立高等学校の再編に対するご意見

〔県民の皆さんから魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けたご意見を聴く会〕

日時 平成22年8月7日(土) 14:00～15:45

場所 コラボしが21大会議室

参加者 県民：68名(発言11名)

県教委：藤田弘之氏(滋賀大学教育学部教授、元県立学校のあり方検討委員会会長)  
教育長、教育次長(管理・指導)、教育総務課長、学校教育課長、  
教育企画室長

日時 平成22年8月8日(日) 14:00～16:00

場所 文化産業交流会館第1会議室

参加者 県民：68名(発言14名)

県教委：藤田弘之氏(滋賀大学教育学部教授、元県立学校のあり方検討委員会会長)  
教育長、教育次長(管理・指導)、教育総務課長、学校教育課長、  
教育企画室長

<主なご意見>

交通の利便性が悪い地域から高校がなくなると、通学費も含め保護者や生徒の負担が大きくなる。

生徒数が減少する中で、再編の必要性は一定理解している。地域に高校があることによって、地域・住民は力をもらっている。再編にあたっては、十分に地域性を考慮していただきたい。

小さな規模の学校にもメリットはある。友人や教員一人ひとりの顔が見える密接な人間関係の構築が可能であり、また、教員が生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行うことができるのでは。

今後10年くらいは、急速に生徒数は減少しないのではないかと。平均学級数も全国平均を上回っているため、10年後なら理解できるが、なぜ今、急いで再編をしようとしているのか。

本年9月の県産業教育審議会の答申を受けて、10月に再編計画(原案)を公表するというのは拙速だ。

県民との議論は始まったばかり。まだまだ周知されておらず、今後も、こうした説明の機会を持つこと。

県の財政状況を理由にするのではなく、次代を担う子どもたちの将来を見据えた再編でなければならない。

再編にあたっては、子どもたちが学びたい、学んでよかったと思う活力ある高校をつくっていただきたい。

魅力と活力ある県立高等学校づくりのためには、従来にない新しいタイプの高校を創造していくことも発想のひとつではないか。

定時制高校には、従来からの勤労生徒や経済的に困難な生徒に加え、最近では、中学校時に不登校であった生徒、学力の低い生徒、外国籍の生徒、全日制高校からの転・編入学の生徒など多様な生徒の受け皿の役割を担っていることから、1学級の定員を少なくしてほしい。

北部の定時制高校については、地域性を考慮していただきたい。

選択科目数の問題については、学校の規模の問題ではなく、大学入試に伴う制約の問題である。大学入試で制限がなければいろいろな科目が用意できる。

農業高校は課題を抱える生徒が多く、3～4学級程度だからやっていっているが、6学級になったら大変なことだ。